

街の活力は 自立と創造から

あのまちこの街

時代の変化を見据えた事業

固定客の維持に創意工夫を 街のイメージ作りを大切に



ほんまち
松本市本町 商店街振興組合
(長野県松本市)



かつて城下町松本の基幹道路 通行量減少の中で新たな展開

歴史とともに発展

天正十三年(千五百八十五年)松本に入った小笠原氏は城下町の建設に着手。このとき城の大手門の真南に道が開かれたのが本町の起源とされる。以来、本町は松本の主要な街路として発展。道の両側には有力な町人が軒を連ね、また交通の要衝として繁栄したという。明治に入っても、地域の商品流通を担う街として栄え、土蔵造りの店舗や洋館が並んだ。さらに大正にかけて、日銀松本支店などの銀行が多く出店し、松本経済の中心地としての地位を固めた。昭和に入ってから繁栄は続くが、三十年代の

車社会の到来が曲がり角になる。大きな問題が次々と郊外に移転。車の混雑を避けて買い物客の減少も見られた。「中心市街地の空洞化」のはしりとも言える。昭和四十一年(一九六六年)に、昭和三十九年(一九六四年)の近代化事業を実施。当時の写真には、土蔵を壊して建てた鉄筋ビルの列と、幅の広い片蓋アーケードが見える。この近代化事業により、街は繁栄を取り戻した。金融・問屋の街から小売商店街に変化する転機ももたらした。五十七年には御影石の舗道など、さらに整備が進められた。なお、この五

十七年に協同組合から振興組合に移行した。

空洞化の危機と区画整理

一方、このころから松本市でも大型商業施設が郊外に進出。車社会化のさらなる進行と併せ、市街地の空洞化が社会問題として直視されてきた。平成九年の調査では、本町における通行量は最盛期の二分の一以下に減少。なお、交差する伊勢町商店街は四分の一になった。こうした中、十五年にかけて、本町周辺の区画

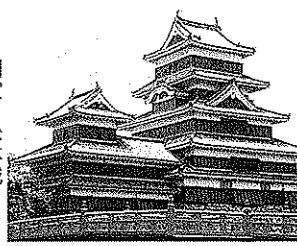
「ルネサンス倶楽部」

街が移り変わる中で、振興組合も新たな展開を

松本市は、長野県中部に位置し、商業都市として知られる。信州まつもと空港(新千歳空港からは一日一便)から中心部までバスで約三十分。本年四月、旧松本市と周辺四村が合併、新たな「松本市」となった。合併後の人口は約二十三万人。松本商店街連盟は四月九日と十日、「新松本市誕生まつり」を実施した。

松本市中心部も、大型店の郊外進出等により危機感を共有。併せて、強力な商店街交差、国産松本城などの観光資源を有することから、観光客を意識し戦略的に歴史性を演出している商店街もある。

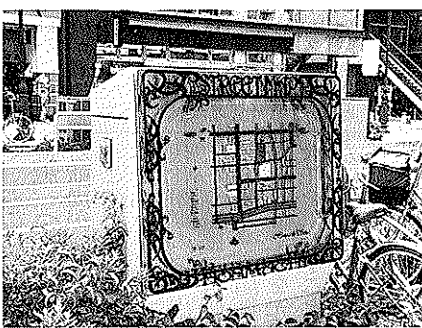
本町(ほんまち)商店街振興組合
http://www.matsumotohonmachi.com/



国宝・松本城



歌碑(右)とベンチ
歌碑は11基あり、フットライトにもなっている



配電盤を利用したマップ
STREET MAP HONMACHI と読める

新事業の連続

新体制となった十六年度、ルネサンス倶楽部は連続的な事業展開を行う。四月から五月、ロゴマーク入りのかごを用いた店頭を飾る活動を行い、二十四店が参加。個店の固有印象を緩和することにも意図した。併せて、地元によるグリーティングカード(絵はがき)を製作し、常連客に頒布した。七月、猛暑の時期に合わせ、松本の伝統行事を絵柄とした「民芸うちわ」を製作し、販売あるいは買い物客にプレゼント。また、別の画によるグリーティングカードを新調して配った。

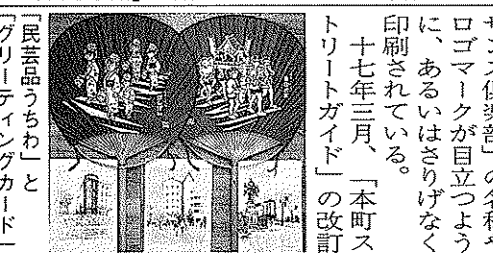
八月、「レンタルアルバム」事業を開始。買い物客に突然の雨の時に無料で傘を貸すもので、アーケードを撤去したところにも対応する。駐車場にも多めに配備した。三色揃え、計二百本製作。傘を貸すと、後日返却に来店することになる。同月から九月にかけて、「芸術の秋キャンペーン」を実施。中心部の文化施設を利用した客に、買い物有無にかかわらず無料駐車券を渡した。地元新聞等の広告に刷り込まれた引換券に文化施設でスタンプを押し、参加店で駐車券と引き換える仕組み。また抽選で商品券を贈った。

十月には「オリジナルエコバッグ」を配布。環境問題に配慮しノリレジ袋化にも対応している。三色×二型の六パターンで計三千枚製作。ナイロン製で外側にもポケットが着いた機能的なもの。個店で販売あるいは買い物客に贈った。

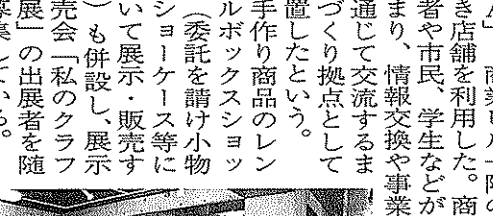
十一月、会員対象に、JALアカデミー講師を招き、「接客マナー講習」を行った。これが大好評で、事業所系を含めた多数の会員が参加した。十二月、「初夢プレゼン」付グリーティングカードと「松本の歳時記カレンダー」をいずれも六千枚作成。カレンダーは季節の民俗行事のイラストをちりばめた大型のもので、裏面はショップガイドになっている。なお、「民芸うちわ」「グリーティングカード」「アンブレラ」「エコバッグ」「カレンダー」などには、いずれも「ルネサンス倶楽部」の名称やロゴマークが目立つようになっている。印刷されている。十七年三月、「本町ストリートガイド」の改訂



「同心小路」と蔵をイメージした染・織物店



「民芸うちわ」と「グリーティングカード」



「ぶらっとPLAZA」とレンタルボックス

本町商店街の一角に、松本商工会議所が設置したのが「ぶらっとPLAZA」。商業ビル一階の空き店舗を利用した。業者や市民、学生などが集まり、情報交換や事業を通じて交流するまちづくり拠点として設置したという。手作り商品のレンタルボックスショップ(委託を請け小物をショーケース等において展示・販売する)も併設し、展示即売会「私のクラブ」展の出展者を随時募集している。

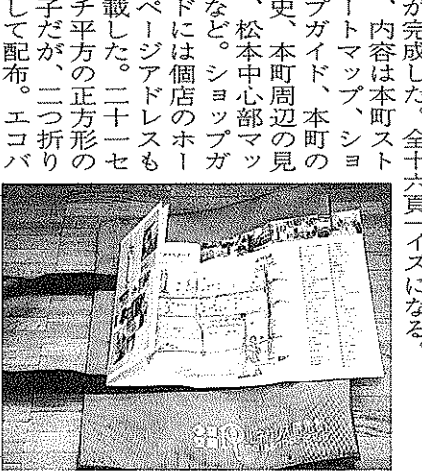
組合の重要な事業として、松本市中心部で行われる大きなイベントである一月の「あめ市」、八月の「松本ほんばん」、十一月の「松本まつり(市民祭)」等への協力があつた。これを「協賛事業」と呼び、運営を支えるほか、本町地区での独自のイベントを行ってきた。特にあめ市は歴史ある松本の代表的イベントとして重視している。一方、これら非日常化したイベントは、そのときから人を集める効果はあるが、必ずしも日常的の集客に結びつくとは限らない。特に最寄り型に限らない。特に最寄り型に限らない。特に最寄り型に限らない。

「ぶらっとPLAZA」とレンタルボックス。積極的にプレスリリースし、地元マスコミで取りあげられることで、住民に本町の存在を思い出してもらい、足を運んでもらうことにつながる。なお、これらの事業は、組合が自前で運営するホームページにおいて、豊富な写真入りで紹介されているので閲覧されたい。

今いる顧客を大切に

商店街に移行しつつある現在、地元の、日常的に買い物に来る顧客を確実に維持することの重要性が増してきている。今回紹介したルネサンス倶楽部の事業は、全てこのことを強く意識している。

「エコバッグ」と「本町ストリートガイド」



版が完成した。全十六頁、一冊になる。で、内容は本町ストリートマップ、ショップガイド、本町の歴史、本町周辺の見所、松本中心部マップなど。ショップガイドには個店のホームページアドレスも記載した。二十一センチ平方の正方形の冊子だが、二つ折りにして配布。エコバッグの外ポケットにもちょうど収まるサイズになる。